

「ように」「ような」の用法：		依頼	お父さんにお土産を買ってくるように頼みました。
「ように」は無意志動詞 「ために」は意志動詞に接続			<input type="checkbox"/> 依頼を表す引用の「ように」の引用節内では丁寧体が使える。
目標	日本の本が読めるように、日本語を勉強します。 9時までには学校に来るようにしてください。	命令	ご遠慮くださいますようにお願い申し上げます。
変化	日本語で話せるようになりました。（個人能力の変化）		先生は教室では日本語だけで話すようにと注意しました。
同様	先生が言うように、言ってください。		<input type="checkbox"/> 命令を表す引用の「ように」は主節を省略できる。
比喩	彼の家はお城のように広いです。（直喩）「まるで・・・」		たばこを吸わないように言われました。
例示	「ように」+動詞 / 形容詞	禁止	たばこを吸わないように！ だけで文章が成立する。
	麻婆豆腐のように辛い食べ物が好きです。「例えば・・・」		部長は残業しないように言いました。
	「ような」+名詞	先生は学生に授業に遅れないようにと注意しました。	
引用	麻婆豆腐のような食べ物が好きです。「例えば・・・」	思考	<input type="checkbox"/> 思考を表す引用の「ように」は「に」の省略はできない。
	言う、話す、示す、聞く、見るなどの動詞について、引用を表す。		今度の試験は合格できるように思う。
	このグラフが示すように、晩婚化が進んでいます。		誰かが来たように思えた。
	先生は毎日宿題をだすように言いました。		<input type="checkbox"/> 「思う」は「です・ます体」は使えない。普通体を使う
	<input type="checkbox"/> 引用の「ように」の引用節内では現在形・過去形が使える。		× 明日は雨が降りますと思います ○ 明日は雨が降ると思います
過去：彼が言ったように今日は雨になった。	推量	視覚情報と体験経験をもとに推量。 太郎は家に帰らなかったようだ。	
現在：彼が言うように、うまく行かなかった。		話し手の物事に対する主観的な推測を表す。 人称制限 モダリティ	
祈り	合格できますように！ 「動詞マス形」+「ように」		[どうやら/おそらく]彼は風邪を引いたようだ。(自分のことは言えない)

「の」の用法		連体助詞	名詞によって名詞を修飾する際に間に入る「の」			
主格	主格の「が」と同等の働きをする「の」		所有	私の本	位置基準	彼の右
	彼女の好きな本 = 彼女が好きな本 かの可変		内容説明	歴史の本	制作者	ゴッホの絵
準体助詞	「～のだ」「～のです」と言う形式で名詞の代わりとして働く「の」 その本は、私のです = 私のものです		同格の場合、固有名詞が多い			
疑問	お花見に誰と行ったの？		同格	社長の鈴木さん	新人の加藤君	
終助詞	それ食べますか？	主述関係	客の到来			
格助詞	格助詞に接続することができる。	平板化	助詞「の」で起こるアクセントの平板化。アクセント核の消失。			
接続	ジョニー へ の 手紙 カナダ から の 伝言		<input type="checkbox"/> おとこが いる。(LHHL) 尾高型 <input type="checkbox"/> おとこの 甲斐性(LHHH) 平板型に変化する 尾高型と平板型の確認には「が」を使って「の」は使わない。			

<b>「ながら」の用法 [付帯ながらの前はVマス形]</b>		<b>付帯</b>	付帯状況のながらは述語が「読む」「書く」などの <b>動態述語</b> になる。
<b>逆接</b>	逆接のながらは、「いる」「ある」「知っている」などの <b>状態述語</b> 。	<b>状況</b>	花子はスマホを見ながら食事をした。[ <b>ヴォイスは接続可能</b> ]
	彼は犯罪行為を知っていながら、見て見ぬふりをした。 残念ながらできません。	<b>名詞+</b>	名詞+ながら：そのまま変化しないで続く状態や様子を表す。 弊社では昔ながらの伝統的な製法にこだわっている。
<b>接続用法</b>	肩を揉ませながら、音楽を聴いた・ 揉ませます = マス形 連用形に「ながら」は接続	<b>ながら</b>	この会社の担当者はいつもながらに態度が悪い。 彼は今回の事件のことを涙ながらに語った
	<b>ヴォイス+</b> ながらは接続可能。      テレビを見させながら○ <b>テンス+</b> ながらは不可                      テレビを見たながら×		モダリティ+ながらは不可                      テレビを見てだろうながら× アスペクト+ながらは不可                      テレビを見ているながら×
<b>「つもり」の用法 意志と想定</b>			
<b>意志</b>	<b>直前が辞書形・ナイ形の意志動詞の時だけ「意志」になる。</b> 早く起きるつもりだったのに、起きたら昼だった 今日から走るつもりだ。 パーティーでたくさん食べるつもりだ。	<b>想定</b>	名詞接続で「想定」や「仮定」 外国人の <b>つもり</b> で街を眺める
	<b>直前が辞書形・ナイ形の意志動詞の時だけ「意志」になる。</b> お酒は飲まないつもりです 今日は走らないつもりです 今日は食べないつもりです。		夕形接続で「想定」や「仮定」 死んだ <b>つもり</b> で頑張る。
			テ形接続で「想定」や「仮定」 あれは空を飛んでいる <b>つもり</b> です
			形容詞接続で「想定」や「仮定」 あれで当人はかっこいい <b>つもり</b> らしいけど、どうもねえ
			辞書形だけど無意志動詞接続で「想定」や「仮定」 あの子は何でも一人でできる <b>つもり</b> でいるらしい。
			無意志動詞：可能形 できる    ポケットに大金が入っている <b>つもり</b>
<b>注意</b>	明日のパーティーに行かない <b>つもり</b> です。 明日のパーティーに行く <b>つもりはない</b> です。		⇒「行く」か「行かない」かで、個人的に「行かない」と決めている。 ⇒「行く」という考えがないと強く否定している。
	(×) 卒業旅行はクラス皆でヨーロッパに行く <b>つもり</b> です。 (○) 卒業旅行はクラス皆でヨーロッパに行く <b>予定</b> です。		他の人と相談して決めたことなどには「予定」を使う方が自然。
<b>「らしい」の用法 推量と典型 聴覚情報をもとに推量する。</b>			
<b>推量</b>	(推量) 助動詞で話し手の推量を表す。 <b>普通形に接続</b> あれはどうやら、猫 <b>らしい</b> 。=猫であるらしい。 <b>元気らしい</b> あの店はおいしい <b>らしい</b> 。(イ形容詞述語文) <b>休みらしい</b> 彼のお姉さんはきれい <b>らしい</b> 。(ナ形容詞述語文) 朝のうちに雨が降った <b>らしい</b> 。(動詞述語文)	<b>典型</b>	「典型的な性質を持っている」 <b>接尾辞 イ形容詞を派生</b> させる。 最近 <b>は</b> 病気 <b>らしい</b> 病気をしていない。 子ども <b>らしく</b> 騒いでいる。 いつもの加藤さん <b>らしく</b> ない。 いかにも日本旅館 <b>らしい</b> 朝ごはん。 今日は夏 <b>らしい</b> 日だ。

<b>「ばかり」の用法</b>				「ほどに」「くらいに」と程度を表し強調のニュアンス。 まばゆい <b>ばかり</b> だ。=まるで[眩しい]かのように。 輝く <b>ばかり</b> の美しさ。
<b>動作終了直後</b>	動作の終了直後を表す。= <b>アスペクト</b> 夕食を食べた <b>ばかり</b> だ。	<b>程度強調</b>		
<b>準備の完了</b>	やるべきことはやった。準備は完了の用法 あとは祈る <b>ばかり</b> だ。	<b>強調</b>		これ <b>ばかり</b> は許されない。：強調
<b>累加</b>	「だけでなく」 日本語 <b>ばかり</b> か、英語も話せる。	<b>悪い原因</b>		後項には、話し手にとって意外性のある悪い結果を述べる。 彼を信じた <b>ばかり</b> にひどい目にあった。 彼を信じた <b>ために</b> 、ひどい目に遭った。「ため」に言い換え可能
<b>専念</b>	「だけでなく」「頻度が多いことを表す」 最近ゲーム <b>ばかり</b> している。	<b>およその数</b>		おおよその数 「だいたい」 電車が出たのは10分 <b>ばかり</b> 前です。
<b>限定</b>	返事をする <b>ばかり</b> で、動こうとしない。 返事をする <b>だけ</b> で、動こうとしない。「だけ」に言い換え	<b>注意用法</b>		限定：「～することが多い」という頻度に焦点が当たっている。 格助詞との接続：「ばかり」は直前・直後に格助詞が接続できる。 太郎は花子 <b>とばかり</b> 遊んでいる。 希望 <b>ばかり</b> が 大きい。
<b>悪い繰り返し</b>	望ましくない状況の繰り返し。 いつも負けて <b>ばかり</b> だ。			
<b>「ところ」の用法</b>		<b>偶然発見</b>		枕を変えた <b>ところ</b> 、眠りが良くなった。
<b>動作の直前</b>	今食べる <b>ところ</b> だ。 準備できた <b>ところ</b> だ。 アスペクト	<b>きっかけ発見</b>		調べてみた <b>ところ</b> 、事実がわかった。
<b>動作中</b>	今食べている <b>ところ</b> だ。 アスペクト	<b>部分</b>		右肩の上の <b>ところ</b> 。/ 怪我をした <b>ところ</b>
<b>動作の直後</b>	今食べた <b>ところ</b> だ。 アスペクト	<b>時間</b>		今の <b>ところ</b> 余震はおさまっています。
<b>逆接</b>	彼に聞いた <b>ところ</b> 、彼も知らなかった。	<b>現段階の状況</b>		今の <b>ところ</b> は、大丈夫です。
<b>状況推測</b>	逃げ出した <b>ところ</b> を見ると、泥棒だな。	<b>反事実</b>		もう少しで、ぶつかると <b>ころ</b> だった。
<b>限界点</b>	できる <b>ところ</b> までやろう。	<b>進展止め変化</b>		出かけようとした <b>ところ</b> に、客が来た。 最後の一行を書いた <b>ところ</b> で、死んだ。
<b>場所</b>	お <b>ところ</b> とお名前をお書きください。	<b>前置き</b>		お願いや謝罪、あいさつなどの前置き。 お <b>楽しみ</b> の <b>ところ</b> お邪魔しました。
<b>仮定 = 「ても」言換え</b>	頼んでみた <b>ところ</b> で、何も変わらない。謝った <b>ところ</b> で、	<b>話題転換</b>		ところで = 「話は変わるけど」に置き換えられる。 ところで、あの件はどうなったの。
<b>「じゃない」の用法 否定とムード</b>		<b>「通して」の用法 期間と手段</b>		
<b>否定</b>	否定の意味がある。取ると命題の意味が変わる	<b>期間</b>		一年を <b>通して</b> 温暖な気候
	彼はアメリカ人 <b>じゃない</b> 。「ではない」の口語体 やる、やらない <b>じゃない</b> 、やるんだ。		<b>手段</b>	
<b>ムード</b>	驚きや非難の意味を添える。取っても命題の意味は変わらない。 やめれば <b>いいじゃない</b> 。↑ (非難のモダリティ) やめれば <b>いい</b> 。 勝つなんて、 <b>すごいじゃない</b> 。↑ (驚きのモダリティ) <b>すごい!</b>			

<b>「上で」の用法</b>		<b>「から」の用法</b>	
状況下	論文を理解する状況では、資料が大切だ 論文を理解する <b>上で</b> 、資料が大切だ。	理由	原因・理由の「から」 電車が遅れた <b>から</b> 、遅刻した。
後で	確認をした後で、ご利用ください。 ご確認の <b>上で</b> 、ご使用ください	理由でない	直接的な理由でない「から」 夕食をつくった <b>から</b> 、食べて行って。
<b>「うちに」の用法</b>		<b>「ことにする」の用法</b>	
していたら	無意志動詞 取材をしている <b>うちに</b> 、仲良くなった。	決定	毎朝、パンを食べる <b>ことにしている</b> 。
間に	意志動詞 彼がいな <b>いうちに</b> 、本を読む。	反事実	子供が風邪と <b>いうことにして</b> 、休む
<b>「応答詞」の用法</b>		<b>「ちょっと」の用法</b>	
そうです わかりました	「お荷物はこちらですね」「はい。」 「至急お願いします。」「はい。」	数量を表す 数量を表さない	そのケーキ、 <b>ちょっと</b> ちょうだい。 <b>ちょっと</b> 山田君、ここに住所を書いて。
<b>「て」の用法</b>		<b>「ておく」の用法</b>	
同時 ~ながら	本を持って、部屋を出た。	放置	文句を言う人は、言わせておこう。
順次 ~して	靴を履いて、外に出た。	準備	連絡しておけば良かった。
<b>「てしまう」の用法</b>		<b>「って」の用法</b>	
完了	昔のことは忘れて <b>しまった</b> 。 みんな行 <b>って</b> しまった。	と	<b>引用の「と」</b> の口語形 田中さんが行くと、 田中さんが行 <b>って</b> 、伝えてください。
後悔	罪を犯 <b>して</b> しまった。 閉店 <b>して</b> しまった。	という	<b>説明の「という」</b> の口語形 田中という人/着いた <b>という</b> 田中 <b>って</b> 人が、さっき来たよ。着いた <b>って</b> メールが来た。
<b>「なおす」の用法</b>		<b>反問/主張</b>	
もう一度	間違えたところを勉強し <b>なおした</b> 。		相手の言葉に対する反問、主張を表す。 不満は無いの？ ないよ、ない <b>って</b> ！
考えを変える	彼女を見 <b>なおした</b> 。	主題の「は」	田中さん <b>は</b> 遅れてくるの？ 田中さん <b>って</b> 、遅れてくるの？
<b>「によって」の用法</b>		<b>「ばなし」の用法</b>	
原因 手段	不注意 <b>によって</b> 、計画が失敗した。 人々の協力 <b>によって</b> 安全を保つ。	放置	～たまま：クーラーをつけたまま寝た。 クーラーをつけ <b>ばなし</b> で寝た。 ～たまま：言い換え不可 歌い <b>ばなし</b> で疲れた。

「なら」の用法		「ばいい」の用法	
主題の「は」	先行発話の一部を引き継いで主題を表す 課長は 帰ったよ。 課長 <b>なら</b> 帰ったよ 北海道 <b>なら</b> ニセコがおすすめです。	願望 アドバイス	この花が、順調に育て <b>ばいい</b> 。 田中さんに聞け <b>ばいい</b> と思います。
取り立て	英語は少し <b>なら</b> 話せる。	「としては」の用法	「立場」や「観点」を表す 私 <b>としては</b> 、賛成できません。 論文 <b>としては</b> 主観的過ぎる。
「なんか」の用法	話し言葉で主題に対する主観的評価を表す。	「とは」の用法	言葉を定義する文の主題を表す。 アコモデーション理論 <b>とは</b> 、ジャイルズの理論だ。
	あいつ <b>なんか</b> に負けてたまるか。(軽視・卑下) こんなことになる <b>なんて</b> ・・・(意外性)	「ったら」の用法	主題を表し、対称への軽視・非難・驚くを表す。 彼 <b>ったら</b> 、私の誕生日を忘れていたのよ。
「のだ」の用法	<b>のだ = んだ</b>	「られる」の用法	
発見	あれ、漫画はここに <b>あったんだ</b> 。	可能	腹を割って <b>話せる</b> 友達。
意志	今日から俺は、生まれ変わる <b>んだ</b> 。	慣用句	話が分かる上司 意外に <b>話せる</b> 上司
事情説明 言い訳	電車が止まった <b>んです</b> 。責任が無いので情状酌量を願う	前 と 前への違い	「前」は継続を示し 「前に」は一回の出来事を表す。
「こと」の用法	動詞の辞書形/動詞のナイ形に接続するとアドバイス。 感情動詞/イ形容詞/ナ形容詞に接続すると感情を強調	前 と 前に	教師になる <b>前</b> 、弁護士でした。 継続 夕食の <b>前に</b> 、手を洗う。食事の前に薬を飲む。 一点
辞書形	病院では静かに <b>すること</b> だ。	間 と 間に	4連休の <b>間</b> 、ずっと勉強していました。 継続 4連休の <b>間に</b> 、願書を出しました。 一点
ナイ形	自信がなければ断定しない <b>こと</b> だ。 いちいちイライラしない <b>こと</b> だ。	まで と までに	朝 <b>まで</b> 勉強します。 継続 彼女が来る <b>までに</b> 、掃除をします。 一点
ナ形容詞	自分を意見を持つことは結構な <b>こと</b> だ。	「ところで」用法	
イ形容詞	冬休みとは羨ましい <b>こと</b> だ。	「話は変わるけど」	<b>ところで</b> 、会議の日程はどうなった？
感情動詞	大変痛ましい <b>こと</b> だ。	逆接のところで	後悔した <b>ところで</b> 、何も意味はない。 英語を勉強した <b>ところで</b> 使う機会が無い。
「一方で」用法			
排他的用法：対比	沖縄はマリンスポーツが楽しめる <b>一方で</b> 、 北海道はスキーが楽しめます。		
非排他的用法：並列	この仕事はやりがいがある <b>一方で</b> 、給料は安い。		

<b>「なお」用法</b>	追加事項がある場合に、後続文の文頭に述べる	<b>「ちなみに」用法</b>	事前に述べたことに関する補足を述べるときに使います。
接続詞	今日は休診です。なお、明日は9時から営業しています。		暑いね、ちなみに過去最高気温らしいよ。関連性あり
副詞	なお、このメッセージは5秒後に消滅する：接続詞 雨が なお 降り続けている。：副詞：引き続き		*涼しいね、ちなみに今日は勉強するんだ。関連性無し (×) ちなみにいくらですか？：補足的な情報を求める表現

<b>「まずは」用法</b>	「先ずは」で「まづは」は誤記	<b>「なり」用法</b>	ひとつの事が起こってから次に起こる表現。
①優先度が高い	まずは聞き込みから始める。	継起表現	家にかえる <b>なり</b> 、猫をなでた。
②とにかく	まずは一件落着。	<b>「なりなり」用法</b>	なりを繰り返すことで列記表現となる。
③押し量る「たぶん」	彼女のことだから、まず間違いないだろう。	列記表現	事前に、連絡する <b>なりなんなり</b> 、できたはずだ。
<b>「どうも」用法</b>	多義的である	<b>「大丈夫」用法</b>	多義的である。
①とても、大変	どうも、ありがとう。	①了承する YES	遅れてごめんなさい。大丈夫だよ。：了承OK
②どうやっても	どうもよくわからない。	②断る NO	もう一杯いかがですか。大丈夫です。：否定
③ありがとう	どうも。その節はどうも。		箸はいりますか。大丈夫です。：不要
④あまり	勉強はできるけど、性格はどうも良くないらしい。		ありがとう大丈夫です。：結構です